

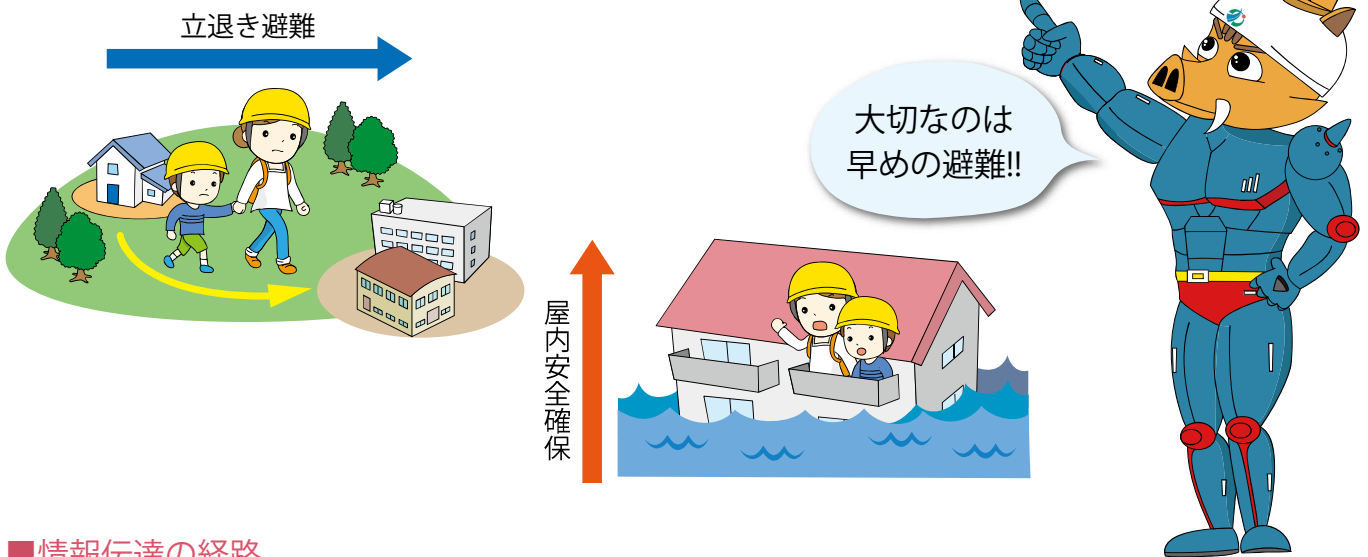
避難の心得

■避難の考え方

「避難」は、災害から命を守るための行動です。立退き避難を基本としますが、気象状況によっては、家屋内に留まって安全を確保することも「避難行動」の一つです。避難行動の選択に先立ち、適切な情報を取得し、早めの避難を心がけましょう。

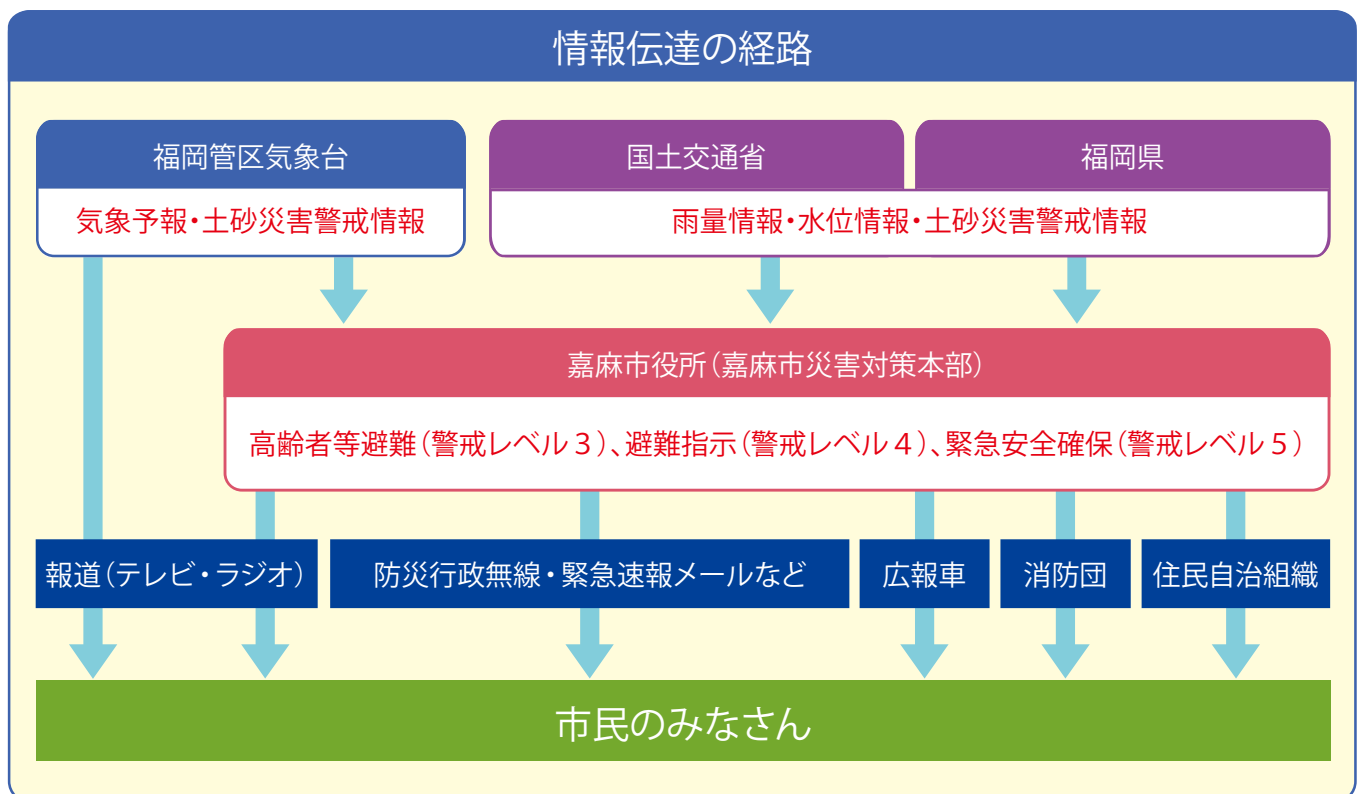
特に、浸水想定区域、土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、自ら早めに判断して「危ない」と思ったら危険な区域から離れる避難をしましょう。

また、夜間や激しい降雨時、道路冠水時などの危険な状況下では、立退き避難する事態をできるだけ避け、屋内のもっとも安全な場所に避難することも必要です。



■情報伝達の経路

嘉麻市では、災害発生のおそれのあるときや、災害の発生が確実なときには災害対策本部を設置し、対応します。また、災害の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発表します。内容と周囲の状況に注意して行動しましょう。



■災害時の連絡方法

災害用伝言サービス

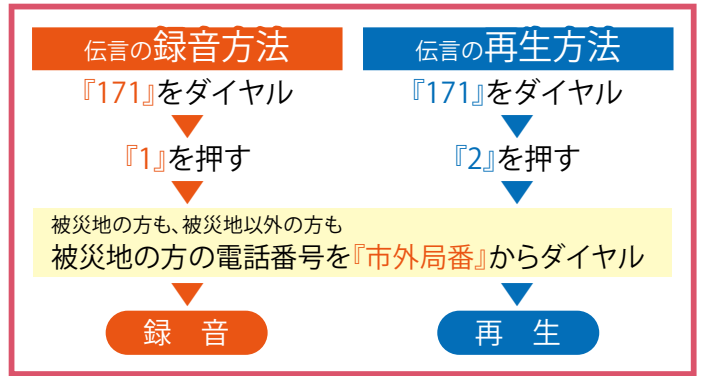
地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が爆発的に増加し、電話がつながりにくい状況が1日～数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル(171)」・「災害用伝言板サービス」・「災害用伝言板(web171)」が開設されます。



災害用伝言ダイヤル(171)

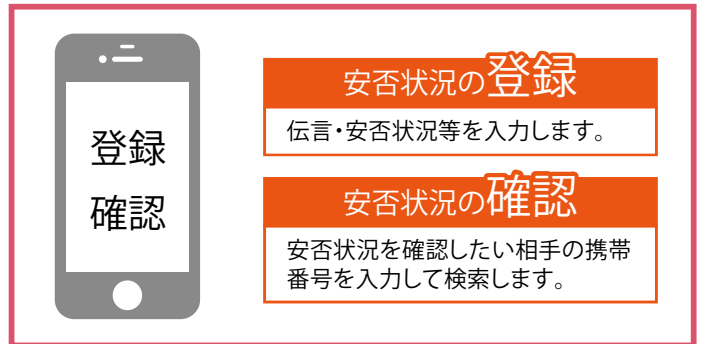
(「171」をダイヤルし、ガイダンスに従ってください)

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否確認)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。毎月1日・15日、正月三が日、及び防災週間・防災とボランティア週間(1月15日～21日)においてお試し利用ができます。



災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。



災害用伝言板(web171)

インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。伝言情報(文字、音声、画像)の登録・閲覧が可能です。

防災メモ ～電話防災無線・避難情報登録電話・防災メール～



電話防災無線 0800-200-5690 (通話料無料)

防災無線が聞こえなかった時は、お電話で放送内容を確認することができます。

避難情報登録電話 (利用料無料・申込が必要)

避難情報登録電話は、ご自宅で防災無線が聞こえず、メール等を利用していない方へ、ご家庭の電話に避難情報を音声メッセージで配信するサービスです。ご利用には申込が必要です。詳しくは防災対策課へお問い合わせください。

災害情報など《メール配信システム》防災メール・まもるくん



災害時の情報などをメールでお知らせします。

mamoru@bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp

上記アドレスに空メールを送信し、その返信メールの内容に従って登録してください。



©CyberConnect2 Co., Ltd.

【お問合せ先】福岡県防災企画課 ☎092-643-3114

■避難時には

1 状況に応じて、すばやく避難!

市から避難情報がある前でも、雨の状況などから判断し、自宅のガスの元栓を閉じて、電気のブレーカーを落とし、戸締まりをして避難しましょう。

2 自分の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう!

特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身につけて避難しましょう。



3 持ち出し品は最小限に!

リュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



4 外出中の家族には連絡メモを残そう!

「〇〇〇へ避難する」といったようなメモを屋内に残しておく良いでしょう。

5 集団で助け合おう!

単独での行動は避け、近所の人たちと声を掛け合って早めに避難しましょう。



6 避難は徒歩で!

車は、約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時は車での避難は避けましょう。



7 安全なルートで!

川べり、橋などはできるだけ避け、安全な広い道を選び、安全なルートで避難しましょう。

8 避難(場)所では係の人の指示に従いましょう!

指定避難所等に着いたら、住所、氏名を報告しましょう。



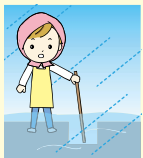
防災メモ ～洪水避難時の注意点～

台風や豪雨による降雨の状況は、事前に気象情報により予測することが可能です。テレビ・ラジオなどで正確な情報を知り、早めの避難を心がけましょう。川の周辺に住む人は、特に注意が必要です。



子どもから目を離さない

小さい子どもなどは大人とロープで体をつなぎましょう。絶対にはぐれないよう、目を離さないようにしましょう。



足元に注意

長い棒を杖代わりに水中のマンホールや溝を確認し、道路はできるだけ真ん中を歩きましょう。



浸水時の歩行は困難

水深がひざまでである、浅くても流れが速い場合などは、無理せず高い所へ避難しましょう。



避難するときは運動靴で!

素足はガラスなどで足を切ったり、長靴は水が入って動きにくくなるので避けましょう。ひもで結ぶ運動靴が良いでしょう。

■要配慮者への支援

要配慮者とは、年齢や障がい、言葉の違いなどによって災害発生時の対応に何らかの配慮が必要な人々のことです。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分に理解できない外国人などが該当します。地域で協力しながら、近所の高齢者、障がい者などの安否確認、指定避難所等への移動、避難生活を支援しましょう。

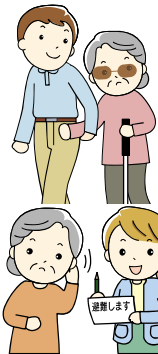


高齢者・病人・幼児等

- おんぶして安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。

肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おんぶして避難する。



目の不自由な方

- 声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持って、半歩手前をゆっくり歩く。

耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

防災メモ ～要配慮者利用施設とは～

社会福祉施設(例:高齢者施設、保護施設、児童福祉施設、障がい者支援施設)、医療施設、学校(例:幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校)など、防災上の配慮を必要とする方が利用する施設です。

大雨・洪水災害時には

■大雨・洪水による被害が想定されるときには

風水害はある程度発生を予測することができます。天気予報やニュースに注意し、危険がせまったら早めに対応しましょう。

前線や台風などにより、風雨が強まってきたら、テレビやラジオ、インターネットで発表される気象庁からの大雨・洪水注意報・警報・特別警報やそれらを補足する危険度分布、はん濫発生情報などを確認し、どのような行動をとるべきかを判断しましょう。詳しくはP7,8をご覧ください。

防災メモ ～線状降水帯とは～

次々と発生する雨雲（積乱雲）が带状に連なる現象で、数時間にわたり同じ場所に停滞または発生することで作り出される、強い降水をともなう雨域です（線状に伸びる長さは50～300キロメートル程度、幅は20～50キロメートル程度）。線状降水帯の多くは暖候期（4～9月）に発生し、集中豪雨を引き起こすことがあります。

■局地的大雨（ゲリラ豪雨）

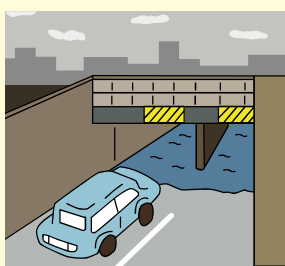
近年、急激に発達した積乱雲にともなう局地的な大雨（ゲリラ豪雨）による痛ましい事故が起こっています。このような事故は、雨による災害への警戒・注意を促す大雨警報・注意報に至らないような雨量でも起こることがあります。

もしこんな場面になったら...

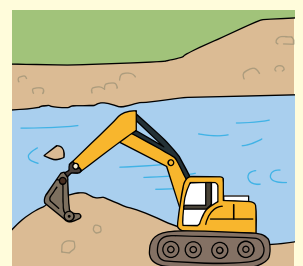
河原や川の中州での釣りやレジャー



地下をくぐる形式の立体交差（アンダーパス）



河川や下水道の工事現場



天気急変に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください



空の状態

「急に真っ黒な雲が近づいてきた」
「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」



川の状態

「水かさが増えてきた」「にごってきた」
「流木や落ち葉が流れてきた」



警報装置

サイレンの音が聞こえる



天気予報

「大気の状態が不安定」「雷」「天気急変」などの表現がある



警報や注意報

雷注意報、大雨や洪水の警報・注意報が出ている



看板

「危険区域には立ち入らない」などの表現がある



レーダー等の観測情報 (携帯電話などで入手)

周辺や上流で雨が降っている

こんな時は要注意! >>>

総雨量は少なくても、
十数分で甚大な被害が発生することがあります

土砂災害時には

■土砂災害が想定されるときには

土砂災害は発生場所や発生時刻を予測することが難しい災害ですが、大雨と同様に天気予報やニュースを確認するとともに、前兆現象にも注意しましょう。市から避難指示などの発令がある場合は、出来るだけ早く避難を行うことが大切です。

特に命の危険をおびやかすことが多い災害ですので、気象庁からの大雨注意報・警報・特別警報やそれらを補足する危険度分布、土砂災害危険度情報などを確認し、対象地区の方は早めの避難を行ってください。

詳しくはP7,8をご覧ください。

■土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。

また、土砂災害には前兆現象があります。前兆現象を確認したら速やかに避難するとともに、嘉麻市役所へご連絡ください。

がけ崩れ

傾斜度が30°以上である土地が崩壊する自然現象



突発的かつ短時間で起こる。
地面にしみ込んだ雨水などが土の抵抗力を弱め、弱くなった急ながけ地や斜面が突然崩れ落ちることです。

土石流


山腹が崩壊して生じた土石等または溪流の土石等が水と一体となって流下する自然現象



破壊力が大きく、速度が速い。
谷や斜面に溜まった土砂が、大雨による水と一緒に流れて、一気に流れ出てくるものです。

地すべり

土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象またはこれにともなって移動する自然現象



緩やかな斜面でも起こる。
地中の粘土層など、すべりやすい面にしみ込んだ雨水などの影響で、山腹がゆっくりと動き出す現象です。

《こんな前ぶれに注意してください!》




斜面にひび割れができる。




雨が降り続けているのに、水位が下がる。




がけから出る水がにこる。



わき水の量が増える。



地鳴りの音が聞こえてくる。



地面にひび割れができる。



がけに亀裂が入る。
がけから小石が落ちてくる。



川がにごったり、
流木がまざりはじめる。



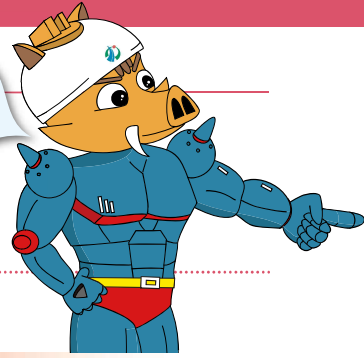
斜面から水が噴き出る。

地震時には

■地震が起きたときには

地震発生時は、あわてずに落ち着いて、身の回りの安全を確認しましょう。

おうちにもたよりになる
住宅火災警報器と
消火器を備えておくボウ



地震が起きたとき、とるべき行動



学校等でのとるべき行動

- ・カバン、帽子、座布団など身近にあるもので頭やくびを保護し、机の下にかくれる
- ・ガラスの破片や、がれきから足を守る（くつをはく）
- ・避難するときの合言葉は「お・は・し・も」
おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない



■緊急地震速報

最大震度5弱以上と予測されたときに、震度4以上の揺れを予測した地域を対象に、気象庁から発表されます。この「緊急地震速報」から数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、ただちに身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。

■緊急地震速報を見聞きしたときには

周囲の状況に応じて、あわてずに身の安全を確保しましょう!

<p>家庭では…</p> <ul style="list-style-type: none"> ●頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる ●あわてて外へ飛び出さない 	<p>屋外では…</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブロック塀の倒壊などに注意する ●看板や割れたガラスの落下に注意し、ビルのそばから離れる 	<p>人が大勢いる施設では…</p> <ul style="list-style-type: none"> ●係員の指示に従う ●落ち着いて行動する ●あわてて出口に走り出さない
<p>自動車運転中は…</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あわててブレーキをかけない ●ハザードランプを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停止する 	<p>山やがけ付近では…</p> <ul style="list-style-type: none"> ●落石やがけ崩れに注意する 	<p>エレベーターでは…</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最寄りの階で停止させ、すぐに降りる

火災時には

■火災が起きたときには

火災発生時の対応として、基本的には「通報(知らせる)」「初期消火」「避難(逃げる)」の順で行動しましょう。ただし、出火直後などは、初期消火が有効ですが、そのために逃げ遅れては大変です。行動の優先順位に気をつけ、冷静な判断を心がけましょう。

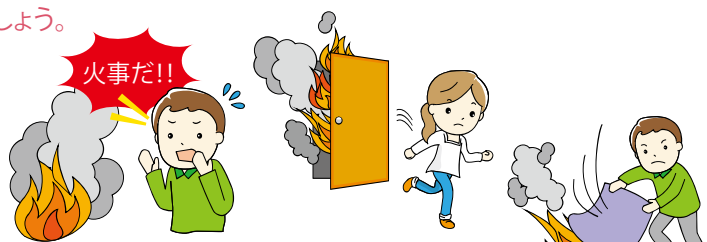
火災発生時の3原則

1 知らせる(通報)

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求めましょう。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせましょう。
- 小さな火災でも119番に通報しましょう。当事者は消火にあたり、近くの人に通報を頼みましょう。

通報では次のような内容を落ち着いて説明しましょう。

出火場所の住所はどこか、目印になる建物など
何が燃えているか、規模の程度
けが人や逃げ遅れた人はいるか
自分の氏名、電話番号など



2 初期消火する

- 出火直後なら初期消火が可能です。落ち着いて、素早く対応しましょう。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものも活用しましょう。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、消火をあきらめて速やかに避難しましょう。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアをできるだけ閉めて空気を絶ちましょう。

避難の際のポイント

本当におそろしいのは煙です。火災で発生する煙には一酸化炭素などの有毒ガスが含まれています。煙を吸わないように避難しましょう。

火元別初期
消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らして軽くしぼった大きめのタオルやシーツを手前から何枚もかけ、空気を遮断して消火しましょう。

ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で消火しましょう。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はありません。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火しましょう。

消火器の使い方



安全ピンに指をかける上に引き抜く

ホースをはずして火元に向ける

レバーを強く握って噴射する

消火器のかまえ方

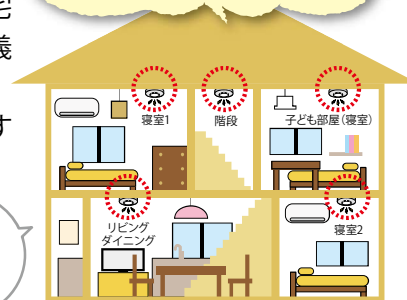
- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、手前から火の根元を掃くように左右に振る。

火災予防が一番!!

住宅用火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。火災による死傷者をなくすためにも設置しましょう。

おやすみ前、お出かけ前には火元点検をお願いします。



住宅内取付位置図

火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もおすすめします。

家族での備え

災害はいつどこで起こるか予想しがたいものです。いざというときの家族の行動、指定避難所等や避難方法、連絡方法などを日ごろから家族でよく話し合っておきましょう。その際、非常持ち出し品の点検も全員で行っておきましょう。

■家族で話し合っておきたいこと

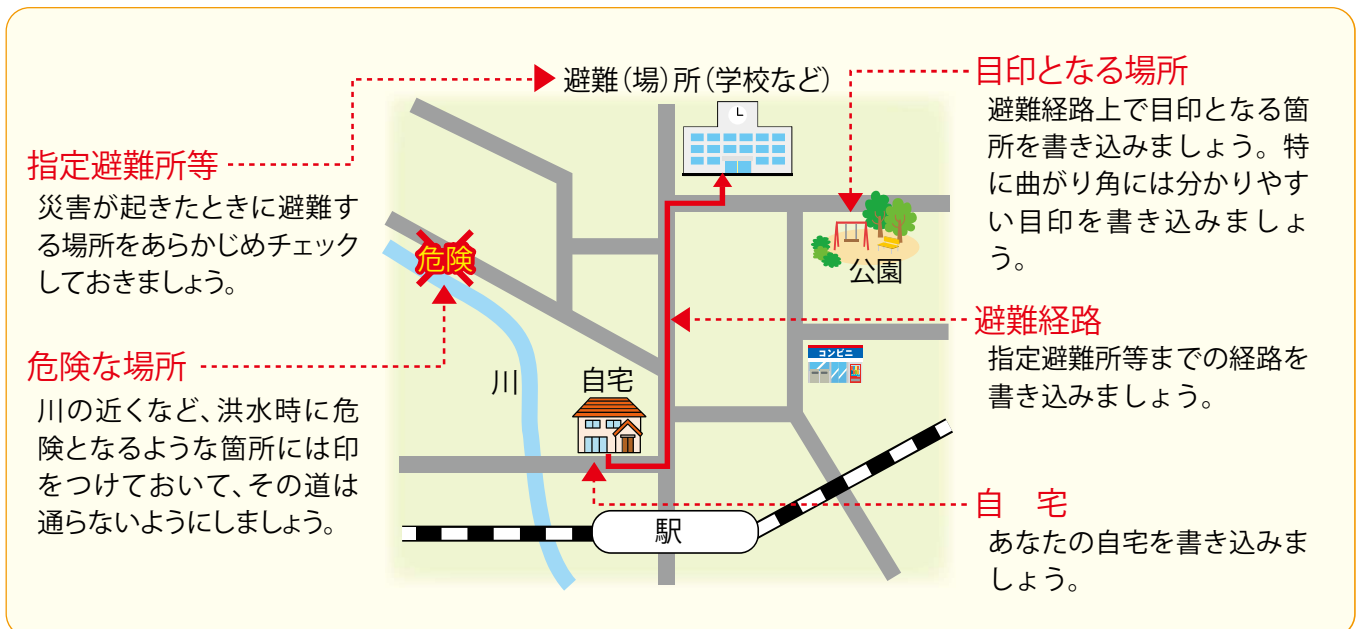
- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| ① 自宅の周りで、災害時に危険と思われる場所はどこか | <input type="checkbox"/> |
| ② 自宅の被害対策（水道、電気、ガス、トイレ、ガラス飛散の対策） | <input type="checkbox"/> |
| ③ 家の中ではどこが一番安全か（家具の少ないスペースはどこ？） | <input type="checkbox"/> |
| ④ 救急医薬品、住宅用火災警報器や消火器などを備えているか | <input type="checkbox"/> |
| ⑤ 幼児や高齢者の面倒はだれがみるのか | <input type="checkbox"/> |
| ⑥ 指定避難所等、避難経路を知っているか | <input type="checkbox"/> |
| ⑦ 避難するとき、だれが何を持ち出すのか、非常持ち出し袋はどこに置くか | <input type="checkbox"/> |
| ⑧ 家族間の連絡方法と最終的に出会う場所が分かっているか | <input type="checkbox"/> |
| ⑨ 昼の場合と夜の場合の役割分担をはっきり決めているか | <input type="checkbox"/> |
| ⑩ 地域の防災活動（自主防災組織など）に参加しているか | <input type="checkbox"/> |

家族で話し合ったら□にチェック ✓ しましょう。

■オリジナルマップやマイ・タイムラインの作成

家族で話し合ったことなどもふまえ、自宅から指定避難所等までの経路や危ない場所などを記載したオリジナルマップや避難行動を整理したマイ・タイムラインを作成し、家族で共有しておきましょう。事前に作成しておくことで、いざというときにあわてず安全に避難行動をとることができます。

マイ・タイムラインについては、裏表紙を参照ください。



地域での備え

大規模な災害が発生したときには、行政機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があります。そのため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

■ 自主防災組織とは

自主防災組織は、三助の内の「共助」を担うものです。「自分たちの地域は自分たちで守る」という基本的な考えにたって、家族や隣近所が互いに協力し、地域が一体となって防災活動を行うのが『自主防災組織』です。

■ 自主防災組織の活動

自主防災組織の活動には、災害に備えて被害の発生や拡大を未然に防止するため日常的に行う活動（平常時の活動）と、災害が発生した後に地域内で被害の発生や拡大を防止するために行う活動（災害発生時の活動）があります。



平常時の活動

防災意識の普及

講習会や訓練を通して防災についての正しい知識を身につけましょう。

地域内の防災環境の確認

災害時に備えて、指定避難所等や避難経路の把握、被害が発生しそうな箇所の確認を行いましょう。

防災資機材の点検・整備

消火活動、救出・救護、応急手当などに必要な防災資機材を点検・整備しましょう。

防災訓練の実施

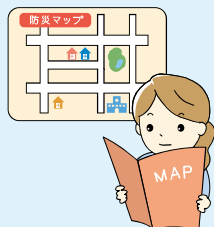
日ごろから災害に備えて訓練を行い、防災活動に必要な知識・技術を習得しましょう。

避難計画の検討

配布されたハザードマップをふまえて避難計画を考えましょう。

要配慮者の把握

災害発生時の避難に支援を要する方（要配慮者）の把握に努めましょう。要配慮者本人からの同意を得て、平常時から消防機関や民生委員等の避難支援等関係者に情報提供し、災害時に支援が出来るようにしましょう。



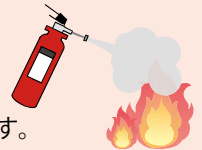
災害発生時の活動

情報収集・伝達

災害に関する情報を収集し、みなさんへ正しい情報を伝達します。

火災の消火

消火器などによる消火活動を行います。



避難誘導

市民の安否確認や避難誘導、指定避難所等の開設などを行います。

救出・救護

被災者の救出・救護、高齢者や障がい者などへの支援を行います。救出活動の際に、危険度が高い場合は無理をせず、出来る範囲で行いましょう。

要配慮者の避難支援

災害発生時に障がいの区分等に配慮し情報伝達を行います。また、避難行動要支援者名簿に基づいて避難支援を行います。

給食・給水

食料品や救援物資などを分配します。また、必要に応じて炊き出しや給水活動を行います。



自主防災組織

■ 防災講習会、防災訓練への参加

災害が発生したとき、私たちの体は思うように動かないものです。いざというときに落ち着いて的確に行動できるよう、日ごろから講習会や防災訓練に参加し、防災に関する知識・技術を覚えましょう。

嘉麻市では、自主防災組織の活動支援を行っています。訓練の方法や講習会の講師派遣などについてご相談がある場合は、嘉麻市役所へお気軽にご連絡ください。

一人ひとりの備え

■「もしも」のときに日ごろから備えを

災害発生時に電気、ガス、水道などのライフラインが止まった場合を想定し、家庭環境に合わせた備えを準備しましょう。

備えには、避難するときすぐに持ち出せる「非常持ち出し品」と、外部からの救援物資が届くまでの数日間を自力で生き延びるための「備蓄品」があります。

両手のあくリュックサックがいいボウ！

すぐに持ち出せる場所に置くボウ！

重さの目安は男性は15kg、女性は10kg程度だボウ

定期的の中身をチェック！消費期限、ラジオや懐中電灯に入れている乾電池が使えるかなど確認するボウ



非常持ち出し品リスト

避難するときにまず最初に持ち出すものです。

- ・リュックサックなどに入れて保管します
- ・必要なものを動きやすい量だけ準備しましょう

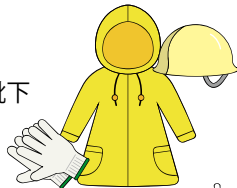
非常食

- 飲料水
- 非常食(乾パン・缶詰など火を通さないもの)



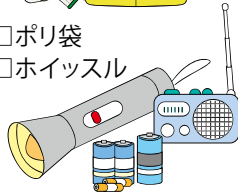
衣類

- ヘルメット・防災ずきん
- 雨具
- 手袋・軍手
- 下着・靴下
- マスク
- タオル



防災用品

- 携帯ラジオ
- 懐中電灯(できれば1人に1つ)
- 予備の乾電池
- 携帯電話の充電器・バッテリー
- ポリ袋
- ホイッスル



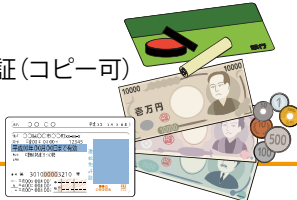
救急医薬品

- 常備薬(持病をお持ちの方は病院から処方された薬)
- 簡単な救急セット(ばんそうこう、包帯、消毒液など)
- 簡易トイレ
- ティッシュ
- ウェットティッシュ
- マスク



貴重品

- 現金(小銭を含む)
- 健康保険証・免許証(コピー可)
- 通帳・印鑑
- ハザードマップ



備蓄品リスト

復旧までの数日間を自活するために、最低限必要なものです。

- ・ダンボール箱などにまとめて保管しておきましょう
- ・1人3日分(できれば1週間分)を目安に準備しましょう

食料など

- 飲料水(1人1日あたり3リットル)
- 食料(缶詰・レトルト食品・カップ麺など)
- 缶切り
- 紙皿・割り箸・ラップ
- 卓上コンロ・ボンベ



衣類など

- 下着類
- 衣類
- 防寒着
- タオル・毛布・寝袋



日用品

- ライター・ろうそく
- 万能ナイフ
- トイレットペーパー



家族構成に合わせた準備を

乳幼児のいる家庭

粉ミルク・液体ミルク・ほ乳びん・おむつ・離乳食・スプーン・おんぶひもなど



妊婦のいる家庭

脱脂綿・ガーゼ・さらし・T字帯・新生児用品・母子手帳など



要介護者のいる家庭

おむつ・補助具の予備・常備薬・障害者手帳など



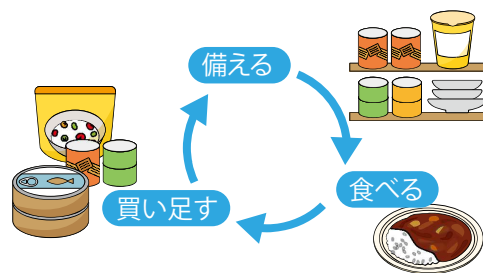
防災メモ ～非常食の準備のポイント～

「東日本大震災」の被災生活では、野菜不足によるビタミンやミネラルの不足が深刻でした。フリーズドライ化した野菜類や乾物類、粉末野菜スープなどを備蓄し、普段の食事に取り入れて食べ慣れておくとよいでしょう。水に限りがある場合が多いので、ボンボンとした食感のものや辛いものは不向きです。おすすめは、水分が多く、エネルギー補給にも良いレトルトおかゆ。調理時はアルミホイルやビニール袋をまな板代わりにし、料理用はさみやピーラーを使うと水の節約になります。



ローリングストックの推奨

「ローリングストック」とは、普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで常に一定量の食料を家に備蓄しておく備え方です。備蓄品の鮮度を保ち、いざというときにも日常生活に近い食生活を送ることができます。



家の備え

風水害への備え

屋根・雨どい

- 不安定なアンテナは補強する。
- トタンがめくれていないか、瓦のひび割れ・はがれがあれば直しておく。
- 雨どいにたまったゴミや木の葉をとり除いて雨水の排水をよくする。

ブロック塀

- 傾きやひび割れ、破損している箇所はないか。できれば安全な生け垣などにする。

板塀

- 板塀に腐りや浮きはないか。
- 板塀には支柱を立てる。

その他

- プロパンガスのボンベは鎖でしっかり固定する。
- 商店などでは看板のぐらつきにも注意する。
- ごみ箱や植木鉢などは室内に入れるか、飛ばないように固定する。庭木にはそえ木をしておく。
- マンションなどでは窓ガラスにガムテープを貼る。

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険のあるものは片付ける。

窓

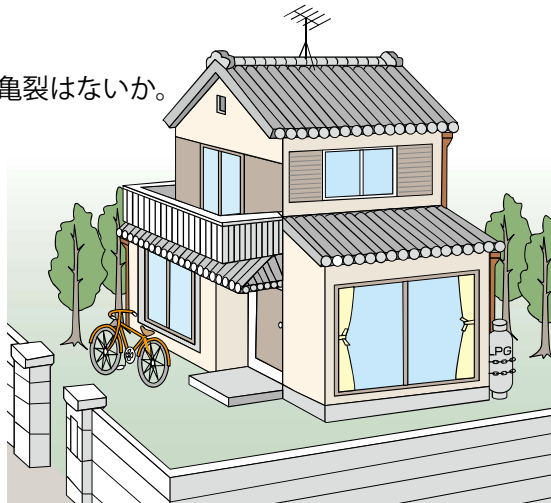
- 窓枠のがたつきはないか。
- 雨戸のがたつきはないか。
- 窓枠を補強する。

排水溝

- 側溝のゴミや土砂をとり除き、雨水の排水をよくしておく。
- 雨水ますのフタを掃除しておく。

外壁

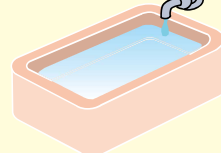
- モルタルの壁に亀裂はないか。



地震への備え

消火用水として！
トイレなどの生活用水として！

- 風呂の水は流さないでためているか。



※乳幼児のいる家庭は、落水に注意してください

- 食器棚や家具を固定する。

- 家屋の耐震対策は大丈夫か。

- 照明器具はしっかりと取り付けられているか。

- 高い場所に花瓶など割れると危ないものを置かない。

- プロパンガスのボンベは鎖でしっかり固定する。

- ガスボンベの周りに物を置かない。

- ベッドや寝る場所に倒れ掛かる家具や本棚はないか。

- ひび割れ、壊れているところはないか。
- 傾いていないか。
- グラついていないか。

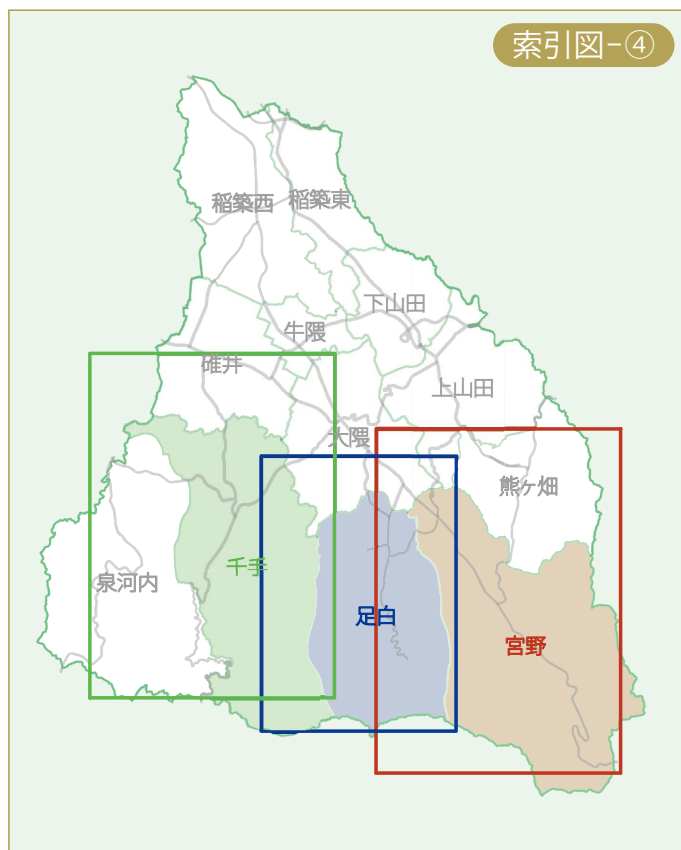
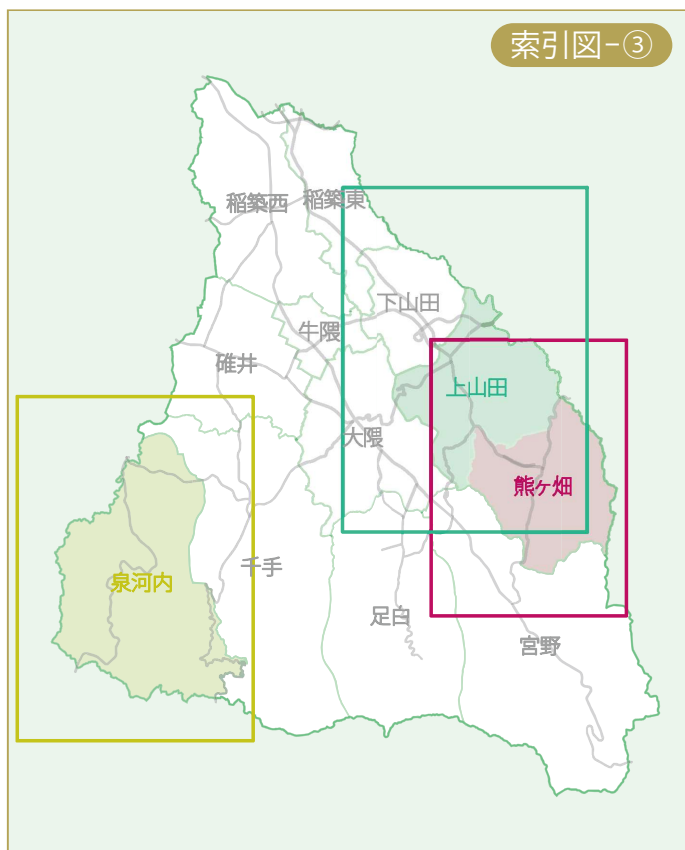
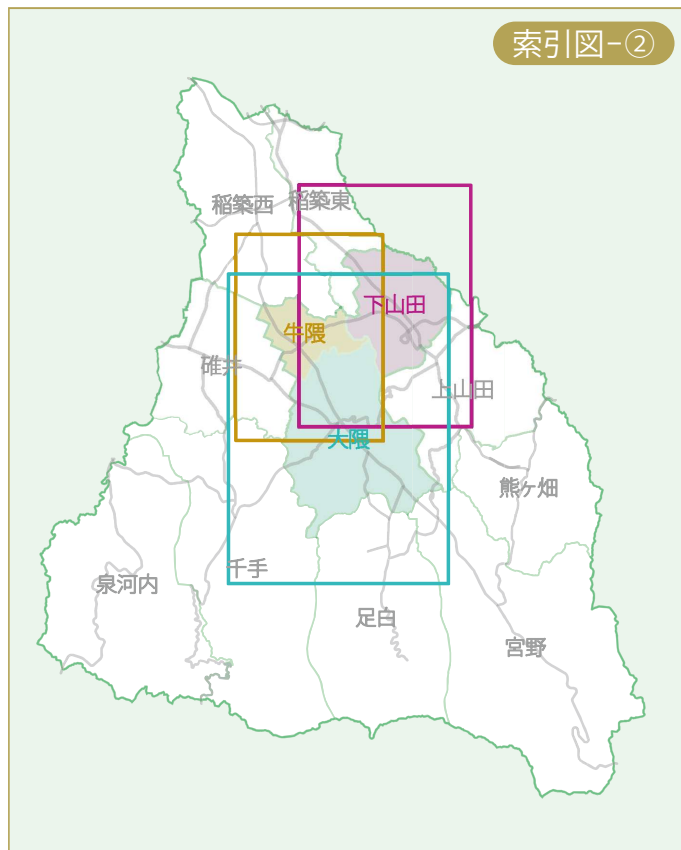
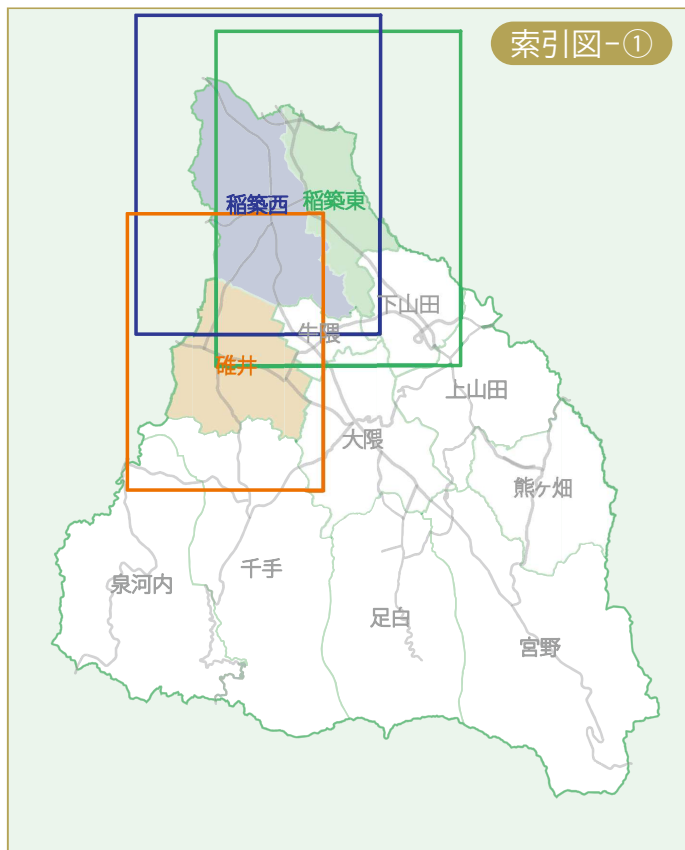
- ストーブをふすま、障子、カーテンの近くで使用しない。

- テレビや水槽は低いところに置く。

地図編

地図には、さまざまな自然災害の情報（洪水・土砂災害・地震）や指定避難所等の位置、防災関連施設などを記載しています。洪水・土砂災害や地震に備えて、災害のおそれがある場所、状況を確認しましょう。

なお、地図で示している危険な場所以外でも、災害が起こる可能性があります。日ごろから地域の危険な場所を把握し、いざというときには正確な情報を入手して早めの避難を心がけてください。



お住まいの地区の地図が1枚入っています。